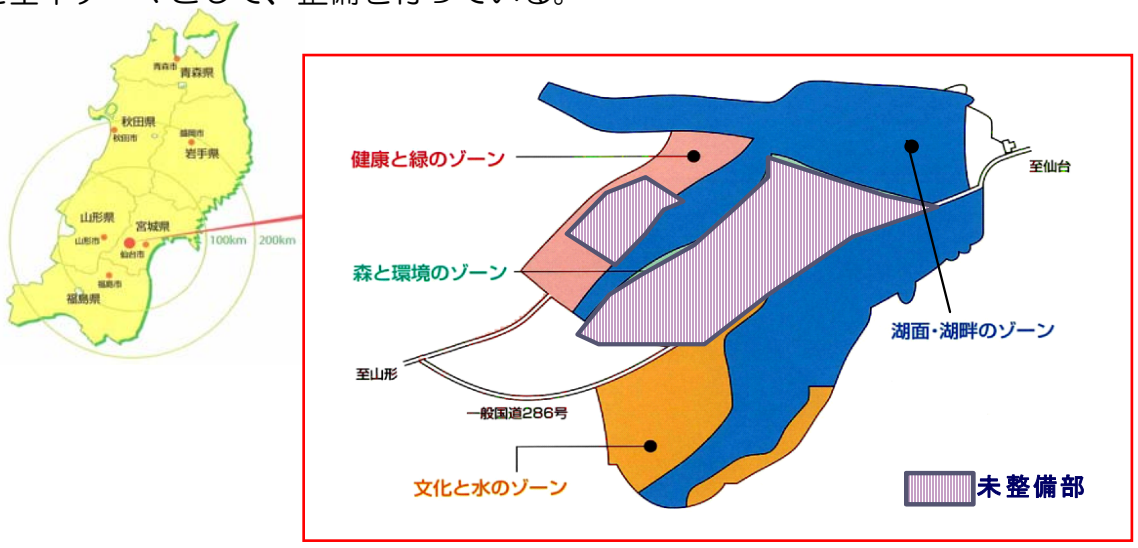
<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td>国営みちのく
杜の湖畔公園</td><td>事業主体</td><td colspan="2">東北地方整備局</td></tr>
<tr><td rowspan="5">事業の概要</td><td>事業場所</td><td>宮城県柴田郡川崎町</td><td>整備内容</td><td colspan="2">整備済：陸132.9ha＋水面 172.2ha
【文化と水のゾーン】83.4ha
【健康と緑のゾーン】49.5ha
【湖面湖畔のゾーン】172.2ha
整備中：陸159.4ha＋水面 182.9ha
【文化と水のゾーン】5.8ha
【健康と緑のゾーン】22.3ha
【森と環境のゾーン】131.3ha
【湖面湖畔のゾーン】182.9ha</td></tr>
<tr><td>事業着手</td><td>昭和 56 年度</td><td>工事着手</td><td colspan="2">昭和 59 年度</td></tr>
<tr><td>全体事業費</td><td colspan="4">470 億円（平成 20 年度まで進捗率 94%、残事業費 28．3億円）</td></tr>
<tr><td>完成年次</td><td>平成 25 年</td><td colspan="2">B／C</td><td>3．54</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="5">1．事業の目的
「国営みちのく杜の湖畔公園」は、一の都府県を越える広域のレクリエーション需要を充足する見地から設置している公園であり、東北の主要都市、仙台市・山形市・福島市を１００ｋｍ圏内におく宮城県柴田郡川崎町に位置し、東北初で唯一の国営公園となっている。平成元年 8 月に一部開園（62.1ha）以来、順次開園区域を広げ現在 305.1ha 供用中。平成 23 年度に健康と緑のゾーンの自然共生園、平成２６年度に森と環境のゾーンの開園を目指して整備を進める予定。</td></tr>
<tr><td>位置図</td><td colspan="5">「みちのく公園」は「豊かな自然環境 との ふれあいを通じて人間性の回復向上」を基本テーマとして、整備を行っている。



健康と緑のゾーン
（一部未整備）

森と環境のゾーン
（未整備）

文化と水のゾーン
（整備済み）</td></tr>
</table>

事業内容

2. 基本方針

① 南東北地方の公園緑地の重要な核として、東北らしい風土と文化を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応する。

② 文化継承の役割を担い、子ども達の冒険心を育てる場や、中高年層の健康維持や活力向上の場として、幅広い年齢層の利用に対応する。

③ 周辺地域の振興と交流に寄与するとともに、南東北固有の歴史と風土に根ざした美しい景観を創出・再生し、周辺の景観、土地利用を誘導する。

④ 利用者が積極的に参加できるプログラム・各種イベントの運営を行うとともに、市民参画による公園づくりを進める。

⑤ 四季の変化を強調し、通年利用がなされるように工夫する。

⑥ 治水・利水の機能を損なわない範囲で釜房湖を有効利用する。

⑦ 自然環境保全地域・鳥獣保護区の指定に遵じ、留意するとともに釜房湖の水質保全に配慮しながら、自然環境保全、活用と適切な利用に取り組む。

⑧ 園内でリサイクル・資源循環を推進し、その成果を発信する。





彩りのひろば



ふるさと村



民話の会（ボランティア）

事業の内容

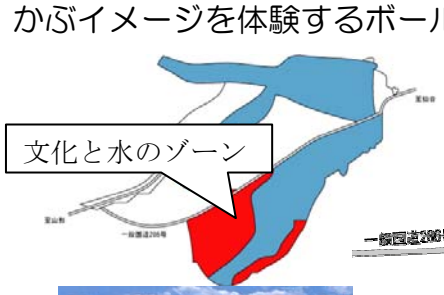
３．　整備済ゾーンの概要

（文化と水のゾーン　H 元.8 ｵｰﾌﾟﾝ）

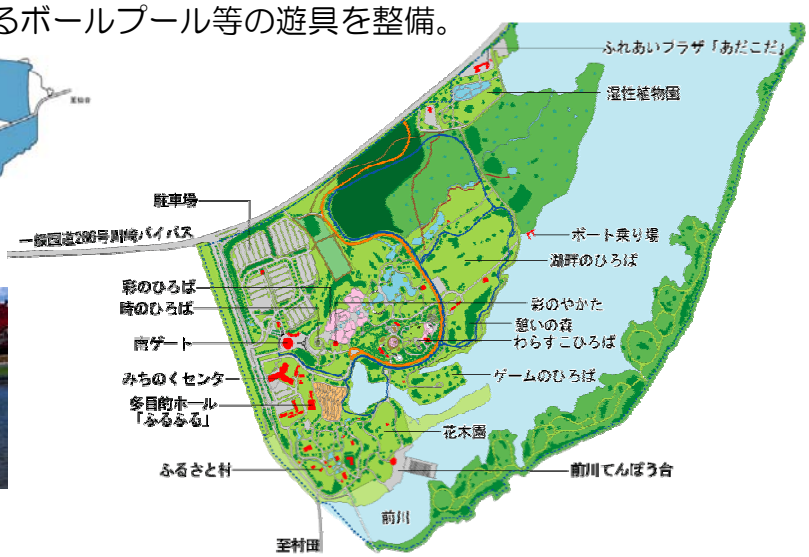
～東北の文化と人間の生命育む水がメインテーマ。～

〈整備概要〉

蔵王と釜房山を軸線に「時のひろば」「彩の広場」「湖畔のひろば」、東北の文化・風俗を古民家等を通じ体験する「ふるさと村」や「わらすこひろば」には水に浮かぶイメージを体験するボールプール等の遊具を整備。




湖見の滝とやすらぎの池



〈整備効果〉

（ふるさと村　H9.10 ｵｰﾌﾟﾝ）

東北各県の古い民家を移築・復元（７棟）し、「ふるさと」の風景をつくり出している。

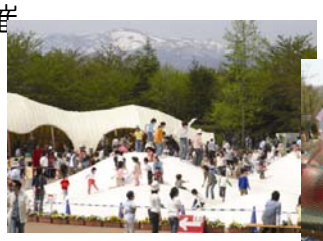
また、東北地方に伝わる「暮らしの知恵」を学びとる、様々な体験イベントを開催。


鳴瀬河畔の家


遊び体験ボランティア

（わらすこひろば　H3.4 ｵｰﾌﾟﾝ）

ちびっこドームやローラースライダー、ジャンピングドーナッツ、せせらぎ水路などを整備し、多くの子ども達でにぎわっている。


ジャンピングドーナツ


フローティング土偶

（彩りのひろば　H 元.8 ｵｰﾌﾟﾝ）

季節ごと１０万株の花々が生命の歓喜を謳いあげる。蔵王連峰と相まった空間は、多彩な年齢層の方々から良い反響がある。


彩りのひろば


せせらぎ水路

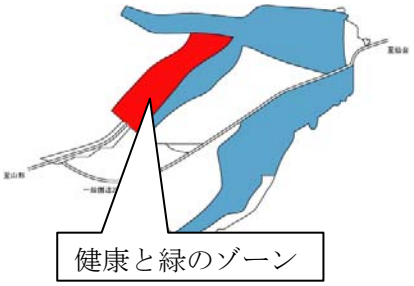
事業内容

（健康と緑のゾーンのエコキャンプみちのく・風の草原・リサイクル施設）

～　東北における自然との共生、資源循環がメインテーマ　～。

〈整備概要〉

蔵王連峰を望む自然の豊かさをキャンプにより実感する「エコキャンプみちのく」や既存自然資源である「丘」「原っぱ」「小川」「雑木林」等で構成する風の草原を整備。





コテージ 30 棟

〈整備効果〉

（エコキャンプみちのく　H15.7ｵｰﾌﾟﾝ）

コテージやオートキャンプサイトを整備したことにより、手軽に自然を味うことを可能とした。

また、ゴミの徹底分別に協力してもらい、持続可能な社会にリサイクルの果たす役割を学ぶ機会を提供し、水と緑の大切さを学ぶ場として夏期は多くのキャンパーが訪れる。（H19.7～8 利用者 35，000 人）


キャンプサイト 149 サイト

（風の草原　H20.5ｵｰﾌﾟﾝ）

草原エリアでは、大きな原っぱを使ったノルディックウォーキング等の健康活動フィールドを提供。ドッグラン（0.4ha）も整備され、飼い犬と共に自然豊かな空間を体験できる場を提供している。


風の草原で遊ぶ子ども達


蔵王遠望する風の草原


ドッグラン

事業内容

（リサイクルの推進）

みちのく公園には、彩のひろばなど多くの花が植えられている。また、自然に豊かな公園として草原や林なども整備されている。これらの管理で発生する剪定枝や刈り草、落ち葉などが年間約３千m3 にも及ぶ。

みちのく公園では、平成 15 年から刈り草等をすべてを堆肥化し、肥料として公園内で使用している。

刈り草等を処分場等で処理した場合、１万円／m3 程度の処分料がかかることから、管理コストの縮減として大きく寄与している。

コスト縮減額　＝　刈草 2,800m3×１万円/m3－製造コスト 600 万円
＝　２２百万円／年

園内で発生した植物系資源のリサイクル







生産した堆肥の活用

・花畑、花壇高木植栽等の土壌改良剤として公園内で100%使用

年間生産量：300m3

さらに、今後整備される自然共生園や森と環境のゾーンでは、森林管理のために伐材木が発生することから、薪やペレット燃料として暖房等に利用し、一層のリサイクルとコスト縮減を図ることとしている。



ペレット燃料

事業内容

４． 市民参画活動

（市民が活躍するみちのく公園）

市民と共に考え、市民とともにつくり、市民が活き活きと活躍する公園づくりを進めている。また、市民の参加で、多彩な体験プログラムを実施している。

さらに、新たな参画を生み出すため、園内で試行的な催しの開催等を募集する「夢プラン」を継続実施している。（平成８年～　応募数 543 件）



自然解説ボランティア



ふるさと村の民話の会



食のボランティア

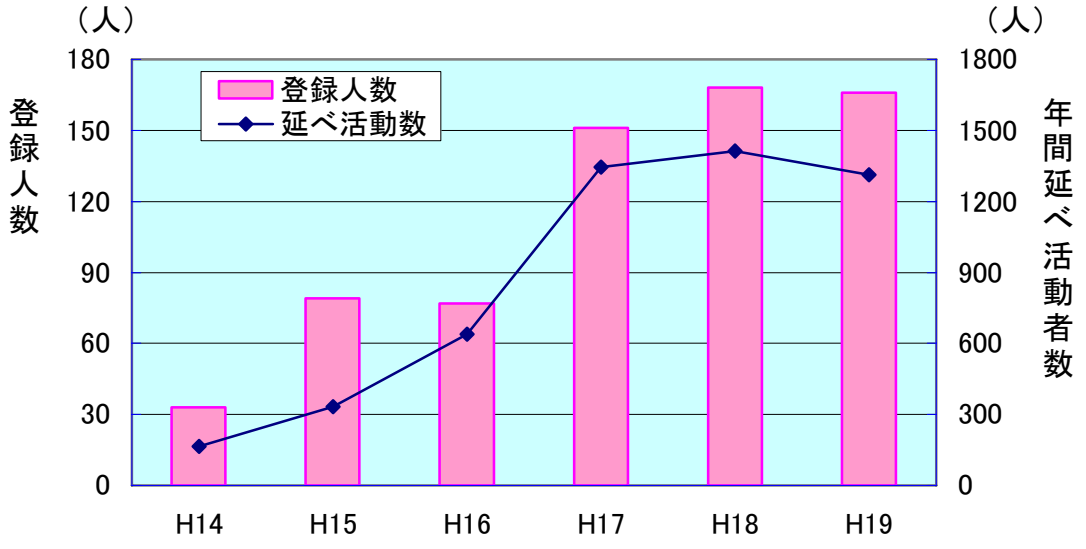


みちのく公園パートナーネットワーク

みちのく公園で活躍するボランティア

- 自然解説ボランティア
- ふるさと村の民話の会
- みちのく公園パートナーネットワーク
- 食のボランティア
- アウトドア･リーダーボランティア
- 昔遊びの会
- 釜房ろばたの会

活動ボランティアの推移



事業内容

（みちのく公園で実施される多彩な体験プログラム）

みちのく公園は、東北の自然や文化にふれあえる公園として、東北の伝統文化体験や環境学習など多彩な体験プログラムを実施している。「総合的な学習の時間」の場として多くの利用がされている。

○自然とのふれあい体験

雑木林や湿地など変化に富んだ公園内をフィールドに「自然を感じ楽しむ会」を毎月開催しています。ネイチャーゲームを通して五感で自然に親しんだり、生き物や植物の生態を観察したりします。また、小・中学校や子ども会等の団体を対象とした環境学習プログラムも用意しています。

（H19 実績）
自然観察会　44 回/年　参加 2,278 名


自然を感じ楽しむ会


自然を感じ楽しむ会

○ふるさと村体験

ふるさと村では、地元の語り部による「ふるさと村の民話を聞く会」や、そば打ち、こんにゃくづくりなどの「食に関する体験イベント」を毎週開催しています。また、ふるさと村の田んぼでは、地元の小学生と一緒に、田植えから稲刈りまで一連の米作り作業を行っています。

（H19 実績）
昔遊び他　70 回/年　参加 11,584 名
ろばたの会　109 回/年　参加 23,216 名


総合学習


ずんだ餅作り体験

○季節の行事

ふるさと村では、「新春ふるさとまつり」「かまくらまつり」「秋まつり」など東北の伝統的な季節の行事を再現しています。どなたでも参加することができます。

（H19 実績）
食の体験　12 回/年　参加 97 名
民話の会　131 回/年　参加 8,295 名
ふるさとまつり　4 回/年

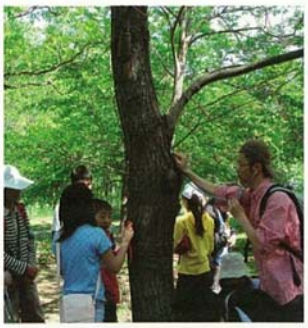

新春ふるさとまつり

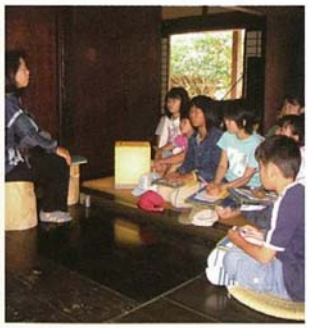

ふるさと村秋まつり

○小中学生等団体向けプログラム

小・中学生や子ども会などの団体を対象に「自然観察会」「民話」「そば打ち体験」をはじめとした各種体験プログラムを用意しています。

（H19 実績）
ｱｳﾄﾄﾞｱ・ﾘｰﾀﾞｰ 48 回/年　参加 16,332 名


自然観察会


民話の会

事業内容

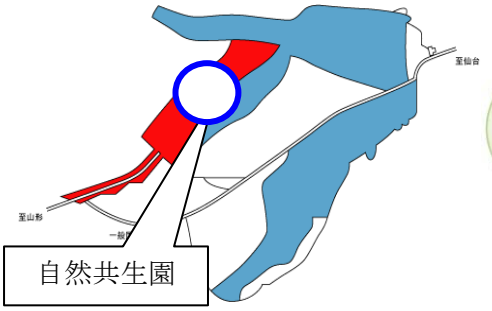
５． 未整備地区の概要

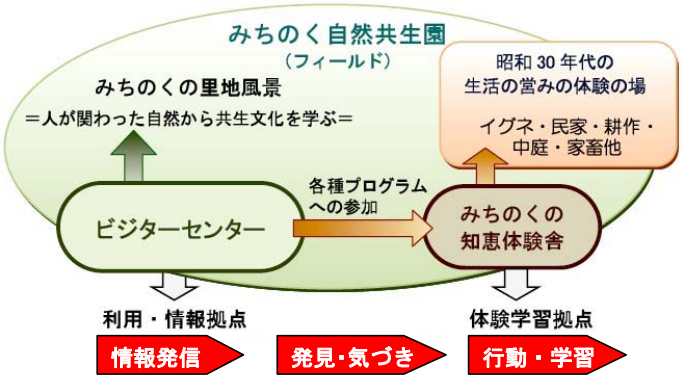
（健康と緑のゾーンの自然共生園）

～　里地の風景と文化を体感し、自然共生、資源循環について学ぶエリア　～

〈整備概要〉

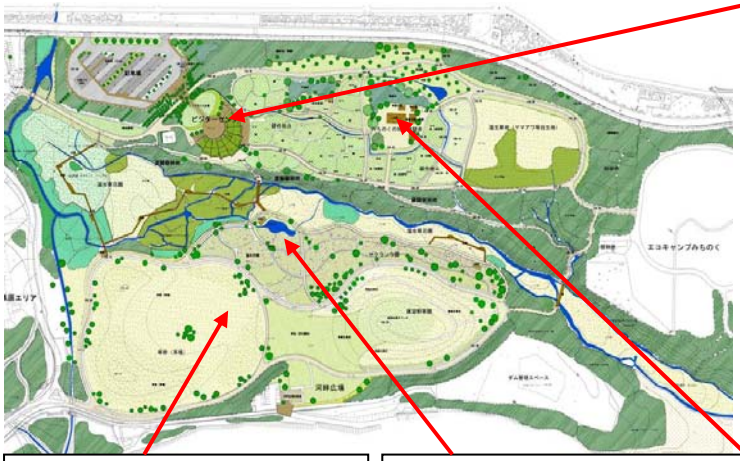
みちのくの文化継承の役割を担うため、「美しい里地風景（自然と共生していた昭和 30 年代をイメージ）」を再現し、里地文化の知恵を体験・参画する「みちのく自然共生園」を整備する。





〈整備効果〉

里地の再生により自然との共生や食や耕作の伝統を感じ、体験する。里地維持のボランティアを育成することができる。



（ビジターセンター）

文化継承のため里地文化（食、耕作、風景）の「良さ」を情報発信し、来園者に「気づき」をうながす。



（茅場の風景）

茅の生えた緩やかな丘陵は、古くから有る牧草地イメージで里地の風景を創出する。



（湿生草花園）

今では希少種となったサクラソウなど里地の野花を再生し、里地に有った小川の風景を創出する。



（知恵体験舎）

里地文化の「良さ」を体験学習（食・耕作）する拠点施設として学舎を建設する。



事業内容

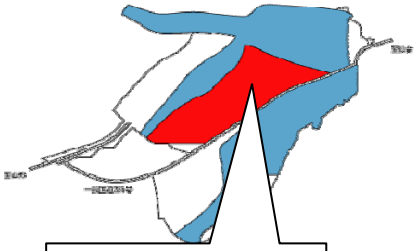
（森と環境のゾーン）131.3ha

～　里山の風景と自然・文化を体験・学習・参画を促すゾーン　～

〈整備概要〉

動植物が豊かであった里山の風景を復活させるため、かつて薪炭林として利用されていた森林を間伐や既存山道の補修により里山を修復する。

また、里山の「良さ」を情報発信・体験する「山の楽校」やみちのく公園を一体化する「地域交流拠点」を整備する。



森と環境のゾーン



〈整備効果〉

（自然生態園）

専門家の意見を聞きながら間伐を実施することにより絶滅の危機にある希少植物を再生する。

また、植物の再生は四季折々の花をもたらし、新たな景観と生物の多様性を生み出す。

（山の楽校）

動植物が豊かな里山の「良さ」と維持するための「文化」を体験する拠点となる。

また、自然に親しむ方法や里山の育成を体験により学ぶ場となる。

（地域交流エリア）

国道隣接地に休憩所を設け、里山の情報を発信し、国道を通過する一般者に里山の「良さ」への気づきと里山維持への参画を促す。

また、今まで分断されていた公園を園路で一体化する。

（整備内容）

- サブセンター（山の楽校）　１箇所
- 散策路（既存道補修）　８ｋｍ
- 管理用道路（公園一体化）　２ｋｍ
- 樹林整備（間伐等）　２０ha
- 休憩所（地域交流拠点）　１箇所



希少種の復活



自然生態園



体験学習（自然観察）



園路の整備

事業を巡る社会情勢等の変化

再評価実施周辺環境変化等

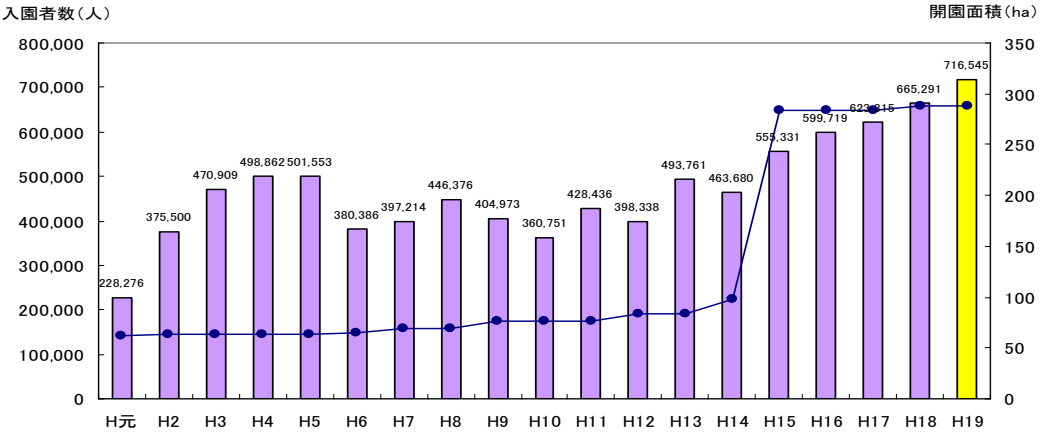
８．「みちのく公園」の入園者数の変化

平成元年８月の開園から平成２０年９月末までの累計入園者は約９５０万人。

平成１９年度は、開園以来最高の７１万人に達した。利用実態調査の結果では仙台市の方が年間約３２万人訪れており、市民の約３人に１人は訪れていることとなる。なお、平成２１年春には累計入園者数１千万人に達する見込み。

なお、より広い地域からの来園者を促すために、広域的なメディアに取り上げられるような個性的な整備・運営が必要であり、東北独自の文化を発信する場となる自然共生園や森と環境のゾーンの整備は有効である。

また、ゴールデンウィーク期間中など、公園の混雑時のスムーズなアクセスや周辺道路の渋滞緩和のため、道路状況の情報提供等を関係機関並びにマスコミ等を通じて行っていく。



９．東北の中の「みちのく公園」

ゴールデンウィーク中（４月２６日～５月６日）の東北地方の主な観光地の人出（東北管区警察局調べ）では、みちのく公園は１０位。

また、宮城県内の主な観光地の人出（宮城県警調べ）でも、みちのく公園は松島海岸に次いで２位。

もはや季節の行楽の場として、無くてはならない公園となっている。

H20年ゴールデンウィーク中の東北の人出
（H20.4.26～H20.5.6東北管区警察局調べ）　（単位：万人）

順位	観　光　地	人出	前年比
①	弘前さくらまつり（弘前市）	167	−35
②	角館桜まつり（秋田県仙北市）	51	−55
③	磐梯山周辺（福島県）	36	増減無し
④	春の藤原まつり（岩手県平泉町）	31	+6
⑤	金木桜まつり（五所川原市）	25	−19
⑥	八戸公園春祭り（八戸市）	25	増減無し
⑦	上杉まつり（米沢市）	24	−1
⑧	松島海岸（宮城県松島町）	22	−2
⑧	鶴ヶ城周辺（会津若松市）	22	+1
⑩	十和田春まつり（十和田市）	18	+9
⑩	国営みちのく杜の湖畔公園（宮城県川崎町）	18	−1

H20ゴールデンウィーク中(4/26～5/6)の主な観光地の人出（宮城県警調べ）

順位	観光地	所在地	入込数（人）
1	松島海岸	松島町	221,500
2	国営みちのく杜の湖畔公園	川崎町	184,000
3	KHBフリーマーケット	仙台市青葉区	124,000
4	八木山動物公園	仙台市太白区	104,200
5	南三陸潮騒まつり	南三陸町	79,000
6	クリネックススタジアム宮城	仙台市宮城野区	78,900
7	全国こけしコンクール	白石市	48,000
8	中新田初午祭	加美町	45,000
9	塩釜神社花まつり	塩釜市	35,500
10	アラバキロックフェスティバル	川崎町	34,000

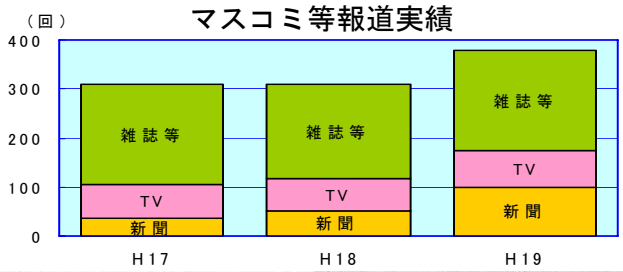
事業を巡る社会情勢等の変化

再評価実施時までの周辺環境変化等

１０．メディアをにぎわすみちのく公園

テレビやラジオなど各種のメディアが独自に取材し、みちのく公園を大きく取り上げるようになった。下図は情報誌「じゃらん」に掲載されたもの。







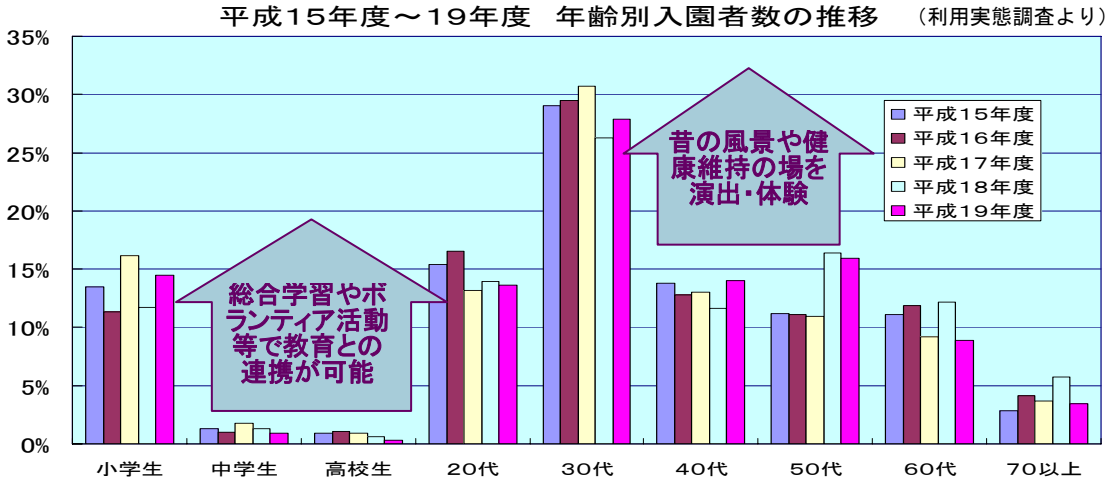
情報誌「じゃらん」が ママの人気宮城県１位と紹介！！

１１．より多くの方に愛される公園として

みちのく公園の最も多い客層は、小学生や幼児がいる家族で、小学生と３０代の入園者が多い。

また、平成１７年度から４０代以降の来園者の増加を狙い花のイベントを充実したところ、効果が入場者数の増加として現れた。

今後整備される自然共生園や森と環境のゾーンは、子供だけでなく大人にとっても魅力的な施設であり、各種体験プログラム等による教育関係と連携も可能で、全体的な増加を図ることができると考えている。



事業の進捗状況

事業の進捗状況

１２．国営みちのく杜の湖畔公園事業進捗状況（平成２０年度）

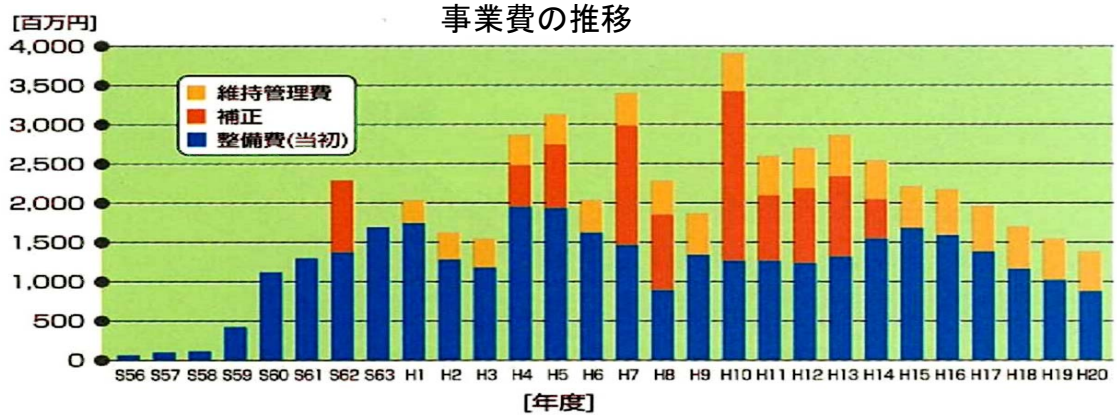
（１）全体事業費:：４７０億円

（２）平成２０年度までの事業費：４４１．７億円

（３）進捗率：９４．０％

（４）残事業費：２８．３億円（平成２１年度～２５年度を予定）

事業費の推移



１３．ニーズを確認し計画を変更

みちのく公園は、昭和５５年から５７年にまとめられた基本計画に基づき整備が進められている。

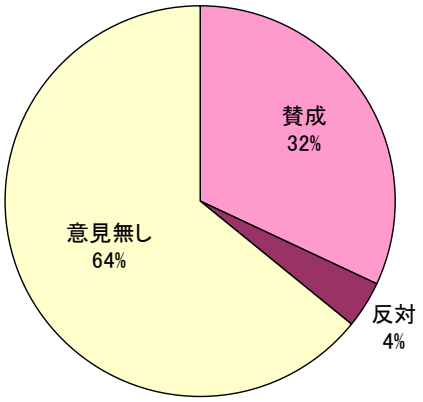
しかし、価値観の多様化や社会の成熟化など、社会情勢は変化していることから、平成１５年度に公園利用者や地域の方などから広く意見を募集し、既開園区域の利用実態やニーズ等を踏まえて点検を行った。

その結果を踏まえ、平成 17 年度に、旧計画で予定されていた大規模温泉施設やロープウェイ等の施設を見直し、ニーズの高い環境体験型の「自然共生園」等を基本計画とした。

なお、新たな計画について、今年度、公園利用者や地域の方などに広く意見募集した。

その結果では、概ね現計画に賛同を頂いている。

現計画への意見



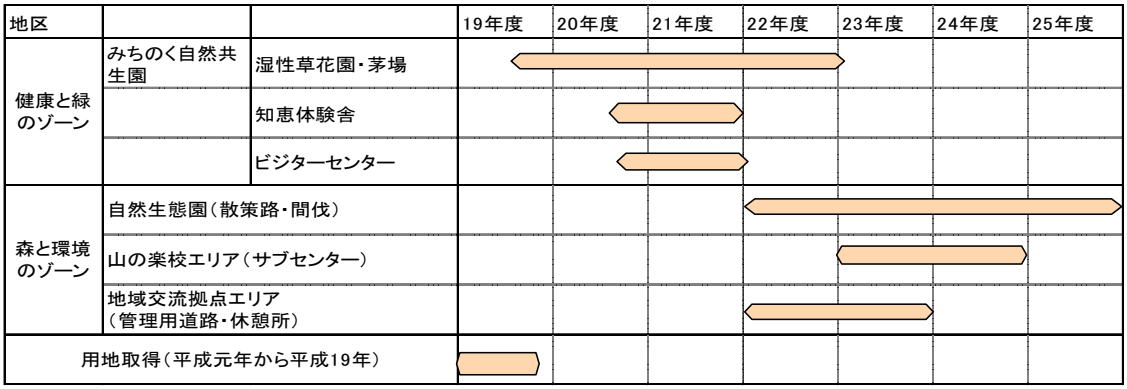
基本計画比較表	旧計画 （受け入れ型施設）	現計画 （体験型施設）
健康と緑のゾーン	カントリーハウス、大規模温泉施設、健康スポーツ･プレジャースポーツ	自然共生園
森と環境のゾーン	自然生態園、森林スポーツ、展望広場、ロープウェイ、都市緑化植物園	自然生態園、山の楽校、地域交流拠点

事業の進捗状況

事業の進捗状況

１４．今後の事業の見通し

現在整備中の「健康と緑のゾーン」の自然共生園、「森と環境のゾーン」全体の整備を進め、平成２５年には全ての事業が完了する予定。



事業の経緯

年	月　日	事　　項	
S 56.	4. 2	・国営釜房湖公園（仮称）事業採択	
57.	12. 14.	・国営釜房公園（仮称）都市計画決定告示	Ａ＝６４７．４ｈａ
59.	10. 15	・起工式	
62.	5. 20	・国営公園を設置すべき区域決定	Ａ＝６４７．４ｈａ
H 1.	8. 4	・開園式「文化と水のゾーン」一部開園（62.1ha）	（供用面積 62.1ha）
	7. 18	・「あだこだ」、展望施設オープン（0.8ha）	（供用面積 62.9ha）
4.	9. 29	・入園者累計 100 万人達成	
	4. 25	・第３回全国「みどりの愛護」のつどい開催	
5.	10. 11	・入園者累計 200 万人達成	
6.	7. 1	・みちのく公園管理センターオープン（2.0ha）	（供用面積 64.9ha）
7.	6. 9	・「花木園」オープン（4.0ha）	（供用面積 68.9ha）
8.	5. 31	・入園者累計 300 万人達成	
9.	7. 1	・「前川てんぼう台」オープン（0.6ha）	（供用面積 69.5ha）
	10. 10	・「ふるさと村」オープン（6.4ha）	（供用面積 75.9ha）
10.	10. 10	・入園者累計 400 万人達成	
	11. 3	・多目的ホール「ふるふる」オープン（0.3ha）	（供用面積 76.2ha）
12.	4. 1	・外周園路、花畑オープン（7.2ha）	（供用面積 83.4ha）
	8. 12	・ふるさと村「津軽の家」「南会津の家」オープン	
13.	5. 5	・入園者累計 500 万人達成	
14.	4. 1	・湖面・湖畔ゾーン供用（158.1ha）	（供用面積 255.6ha）
	7. 19	・西口エリア供用（11.6ha）	（供用面積 267.2ha）
15.	4. 1	・リサイクル施設供用（0.3ha）	（供用面積 267.5ha）
	5. 10	・入園者累計 600 万人達成	
	7. 12	・エコキャンプみちのくオープン（16.2ha）	（供用面積 283.7ha）
17.	3. 26	・ふるさと村概成	
	3. 26	・入園者累計 700 万人達成	
18.	4. 22	・「自然体験学習エリア」オープン	
	8. 8	・入園者累計 800 万人達成	
20.	3. 22	・入園者累計 900 万人達成	
	5. 31	・風の草原オープン（17.6ha）	（供用面積 305.1ha）

事業の投資効果

費　用　対　効　果　分　析

１５．費用対効果の算出

平成１９年度に改訂が行われた「大規模公園費用対効果分析マニュアル（改訂）」に従って、便益を測定し、費用対効果を分析する。

マニュアルによる分析の概要

費用の算定

費用＝事業費＋維持管理費

■事業費

施設整備費、用地費の総計

■維持管理費

50年間の維持管理費

社会的割引率4%を考慮

便益の算定

便益＝直接利用価値＋間接利用価値

■直接利用価値（旅行費用法）

移動費用（料金・移動時間費用）を支払ってでも公園を利用したいとする価値

■間接利用価値（効用関数法）

公園が存在することによる環境・景観、防災面の価値

社会的割引率4%を考慮

費用対効果（B／C）＝（便益）／（費用）

「費用便益算定」の流れ

①誘致圏の設定
②ゾーン（市区郡）の選定
③競合公園の選定
④費用（Cost）の算定
⑤直接利用価値の算定
⑥間接利用価値の算定
⑦費用便益の算定

■誘致圏を100kmと設定

	5km未満	0～10km	0～20km	0～50km	0～100km
総合公園	55.3%	73.6%	85.1%	93.0%	95.4%
運動公園	57.7%	75.0%	87.9%	95.8%	98.5%
広域公園	33.1%	51.4%	72.0%	86.6%	93.0%
国営公園	7.9%	19.5%	42.4%	72.6%	91.0%

出典：国土交通省　平成18年度都市公園利用実態調査

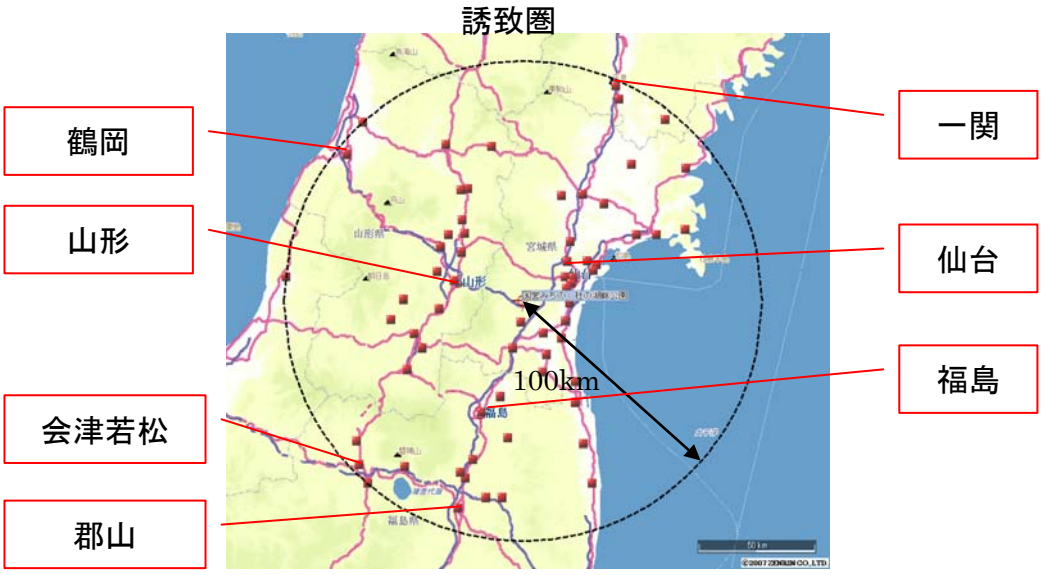
■誘致対象とする市町：仙台市、福島市、山形市、会津若松市、鶴岡市、一関市等（66市区郡）
■誘致圏内の競合公園を選定：89公園

■公園整備に要する事業費（施設整備費・用地費）と公園供用後50年間（H元～H50）に要する維持管理費用の合計。

事業の投資効果

費　用　対　効　果　分　析

ゾーン及び競合公園の設定



■検討ゾーン数は６６市区郡
■競合公園は８９公園

費用の算定

〔費用(Cost)〕:公園整備に要する事業費(施設整備費、用地費)と、公園供用後50年間の維持管理費に要する費用の合計

●事業費				
事業費内訳（単純価格）		～H20	H21～H25	総事業費
	施設整備費	27,696百万円	2,833百万円	30,529百万円
	用地等費	16,471百万円	－	16,471百万円
	合計	44,167百万円	2,833百万円	47,000百万円
事業費現在価値	現在価値(H20)	－	－	76,659百万円
●維持管理費				
基準年維持管理費		部分供用時	今後の維持費	総計
	単純価格	555百万円(H20)	625百万円(H26)	－
50年分維持管理費	現在価値(H20)	13,729百万円	10,642百万円	24,371百万円
●費用合計				101,030百万円

※事業現在価値は用地費を機会費用としており、評価期間終了後(51年目)にすべての用地を売却するものと見なし、51年目における用地残存価値を費用から控除している。(売却額3,632百万円)
※事業費の算出に用いているデフレーターはH19Pとなっている。

費　用　対　効　果　分　析

直接利用価値の算定（旅行費用法）

〔直接利用価値〕：移動費用（料金・移動時間費用）を支払ってでも公園を利用したいとする価値

【算出方法】旅行費用法
→ 各ゾーンからみちのく公園までの移動時間費用や公共交通運賃をもとに貨幣価値に換算

直接利用価値＝各ゾーン、各年齢区分毎に算出された消費者余剰の総和

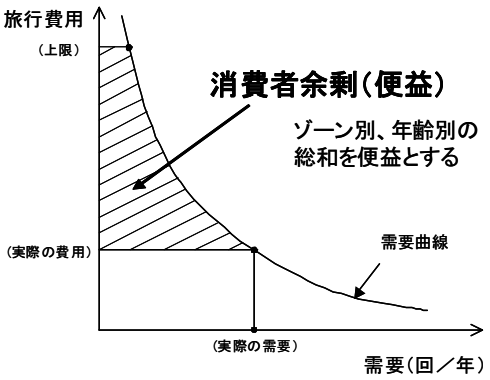
■みちのく公園の誘致圏において、ゾーン別（66ゾーン）、年齢区分別（4区分）毎に需要関数を推計（66×4=264）

■ゾーン別、年齢区分別の需要関数から消費者余剰（便益）を求め足し上げて便益を算出

なお、需要関数の推計においては

①公園の整備内容
②周辺公園の整備状況（他の公園との競合）
③周辺地域の特性（人口密度）

を反映させている。



※ マニュアルより抜粋
当該公園の誘致圏域内でもっとも高い費用を上限としている。

間接利用価値の算定（効用関数法）

〔間接利用価値〕：公園が存在することにより「環境の維持改善、景観の向上に」役立つ価値」、「防災に役立つ価値」

【算出方法】効用関数法
→ 公園が「ある場合」と「ない場合」を比較し、効用値（価値）の算定から統計的係数により貨幣価値に換算

間接利用価値＝各ゾーンのみちのく公園への支払意思額（円／世帯）×各ゾーン内の世帯数

■各ゾーン（40km圏内）において、みちのく公園が存在する場合と存在しない場合の「環境の価値」、「防災の価値」の支払い意思額の差を便益とする。

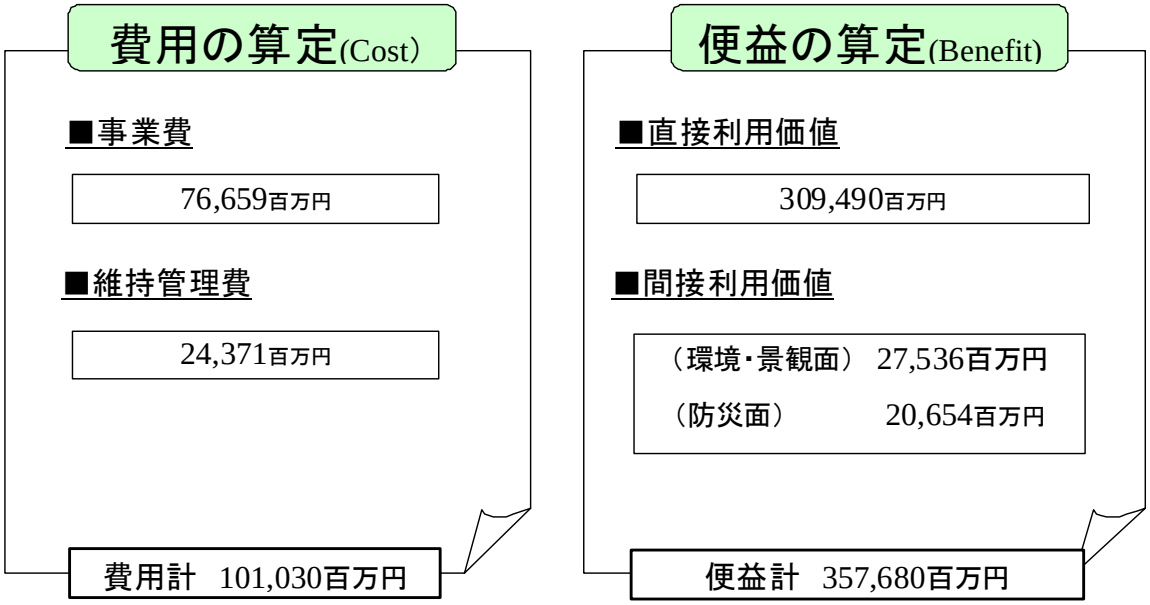
■環境の価値（環境の維持・改善、緑地の保存、景観の提供）は、公園の緑地面積と各ゾーンまでの距離に応じた支払い意思額。

■防災の価値（災害時の避難地の確保、救助活動の場の確保、復旧・復興の拠点の確保）は、公園の広場面積と防災拠点機能の有無と各ゾーンまでの距離に応じた支払い意思額。

事業の投資効果

費　用　対　効　果　分　析

費用便益比の算出



費用対効果（B／C）　＝　357,680百万円／101,030百万円　＝3.54

費用便益分析結果一覧

総便益　(B)	357,680	［百万円］
総費用　(C)	101,030	［百万円］
費用便益比(B/C)　※１	**3.54**	**［　－　］**
純現在価値(NPV)　※２	256,650	［百万円］
経済的内部収益率(EIRR)　※３	29.0	［　％　］

【投資効率性の３つの指標】

※１：総費用と総便益の比（B/C）。投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1 以上であれば、投資効率性がよいと判断。）

※２：総費用（C）と総便益（B）の差（B－C）。事業の実施により得られる実質的な便益額を把握するための指標。
（事業費が大きいと大きくなる傾向。大規模事業ほど大きくなる。）

※３：投資額に対する収益性を表す指標。今回、設定した社会的割引率（4％）以上であれば、投資効率性がよいと判断。
（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い。）

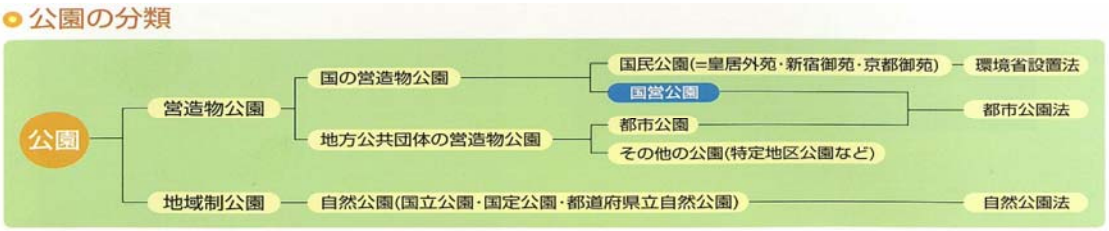
	事　業　の　評　価
	１６．国営みちのく杜の湖畔公園事業の評価 **原案：継続** 国営みちのく杜の湖畔公園事業は、 ①　東北らしい風土と文化を踏まえ、利用者が積極的に参加・参画できるプログラム・各種イベントの運営を行い、年間７０万人を超える来場者を迎えている。 ②　今後の整備は、失われつつある「ふるさと」を実践するものであり、幅広い利用が見込まれ、かつ、整備により各ゾーンを一体化することから、公園の利便性を大きく高め、利用者の増加が予想される。 ③　宮城県や仙台市など地元自治体等からは早期完成の要望がなされており、一層の事業の推進が期待されている。 以上のことから、事業の効果が認められる。
事業の評価	**（早期完成要望団体）** ○ 国営みちのく杜の湖畔公園建設推進連絡協議会 構成メンバー：宮城県他２３市町村 ・構成市町村内の学校に支援事業として、みちのく公園入場料を無料化。来園者増加の支援となっている。 ○ 仙台市・川崎町広域行政協議会 構成メンバー：仙台市、川崎町

国営公園

１７．その他

（国営公園としてのみちのく公園）

国営公園は、一の都府県を越える広域の見地から設置するもので、「みちのく公園」は南東北の主要都市、仙台市・山形市・福島市などを１００ｋｍ圏内におく東北唯一の国営公園として整備しているものです。







コスト縮減

（みちのく公園のコスト縮減の取り組み）

他工事の残土を利用
（国営みちのく杜の湖畔公園　草原エリア造成）

事業概要：（従来）　　（新）
購入土で築山造成　⇒　他事業の建設発生土を用い築山造成

効果：　みちのく公園草原エリアの築山約６０，０００ｍ３の盛土工事について、仙台市の下水道事業等で発生した建設残土を用いることにより、工事費を２．２億円→１．１億円に縮減。

工事費1．1億円の縮減



草原エリア予定地への発生土仮置き状況



草原エリア築山造成後

種子散布と発育管理による緑化のコスト縮減
（国営みちのく杜の湖畔公園　草原エリア緑化）

事業概要：　（従来）　　（新）
張芝による緑化　⇒オープン1年前に種子散布を行い、散布後適正な発育管理を行うことでオープン時に張芝と同じ品質を確保

効果：　①草原エリア緑化にかかる建設費を０．６６億円→０．１１億円に。

工事費55百万円の縮減



張　芝



種子散布



発育管理(芝刈)

環境への配慮

（みちのく公園の環境の取り組み）

公園整備での環境への取り組み

風の草原の整備に当たっては、動植物への影響を小さくするため既存の地形をそのまま活かし整備を行った。

特に釜房湖畔や整備地に有った小川の周辺は湿性植物等が多かったことから、木は伐採せずに極力残す計画とした。また、公園内の下水は釜房湖下流の下水処理場で処理・放流されている。

草原を流れる小川についても、将来的に生き物に優しい環境をつくり出すため、コンクリートで固めることなく土のままで整備した。

なお、管理に当たっては農薬等の薬剤は使用していない。





残された既存の木



土のまま小川を整備

今後整備を予定している「自然共生園」や「自然生態園」にはリュウキンカやクリンソウ、各種のランなど沢山の希少種が手入れされなくなった林下にあり、絶滅しかかっている。

今後の整備は、専門家の意見を聞きながら、間伐等によりこれらの希少種に日光が射すようにすることにより復元・再生を図っていく。

また、河畔林などはそのまま残し、現況地形と現況植生を活かした整備を行う。

これにより、生物の多様性を確保することが可能となる。



希少種の復元・再生



現況地形・植生を活かした整備

利用推進体制

（より魅力的なみちのく公園を目指して）

○花の見所づくりの演出

春季イベント（４月１９日～５月６日）２００８花のフェスティバル


彩り広場の大花壇


シカボートレイン


クリスマスローズ


やすらぎの池チューリップ花壇

夏季イベント（５月２４日～６月８日）
ポピーまつり２００８


花畑：ポピー


花普請inみちのく　古民家をいける


盆栽展

利用推進体制

秋季イベント（9月13日～10月19日）
コスモスまつり2008


花畑:コスモスの修景


だんだん畑
コスモスの修景


コスモス花の万華鏡つくり

○市民・地域・企業との連携強化

樹々のアート展
草月流宮城県支部と宮城教育大学が協同で、間伐材を利用し公園内で、芸術発表を行うもの。




花普請inみちのく
日本造園建設業協会や園芸専門学校、宮城県柴田農林高校・加美農業高校が製作したミニガーデンの発表会。




グリーンサム物語
日本造園建設業協会・池坊仙台橘支部・表千家・裏千家、他多くの団体がふるさと村で芸を披露するイベント。




レイクフェスタin釜房
釜房ダム水源地域ビジョンの方々が主体となって、水源保護やリサイクルの広報等を行うイベント。




利用推進体制

〇ふるさと村の利用活性

ボランティア団体との協働イベント（7団体・192名）







東北地方のすばらしい伝統行事の紹介







〇総合学習活動の場としての利用提供

自然を感じ楽しむ会 （毎週日曜日開催）







自然学習プログラム
（PWのアクティビティを含んだ30のプログラム）
対象：学校等団体（平日）





プロジェクトワイルド
エデュケーター養成講習会
対象：教員・環境教育に興味のある方





利用推進体制

○大型イベントの誘致

ARABAKI ROCK FEST.08’






開　催　日　4月26日～4月27日
開催場所　**エコキャンプみちのく**
アーティスト　92組
来　場　者　4月26日　16,849人
4月27日　17,122人
延べ　**33,971人**

